

[野菜部門]

2. 天敵の保護や害虫誘引に利用可能な景観植物の被度及び開花の特性

[要約]

天敵の保護や害虫誘引に利用可能な景観植物のうち、センニチコウ、アゲラタム、マリーゴールド・フレンチ及びメランポディウムは、長期間被度が高い。センニチコウ、カリブラコア、ペチュニア、メランポディウム及びスカエボラは、長期間継続して旺盛に開花する。

[担当] 野菜・花研究室、病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

景観植物を害虫防除に活用するには、景観植物の生育や開花の特性を知っておく必要がある。そこで、有望な景観植物の被度及び開花期間を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. センニチコウ、アゲラタム、マリーゴールド・フレンチ及びメランポディウムは、夏期から秋期まで継続して被度が高い。カリフォルニアポピー及びソバは、夏期以降に被度が低下し、秋期までに枯死する(図1)。越年性のスイートアリッサム及びユリオプスデージーは定植2年目の被度が高い(データ省略)。
2. センニチコウ、カリブラコア、ペチュニア、メランポディウム及びスカエボラは、夏期から秋期まで継続して旺盛に開花する。カリフォルニアポピーは春期に旺盛に開花し、スイートアリッサム及びマリーゴールド・フレンチは、秋期に旺盛に開花する(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 岡山県南部に適用できる。
2. 景観植物の生育や開花の時期には地域差や年次間変動がある。

[具体的データ]

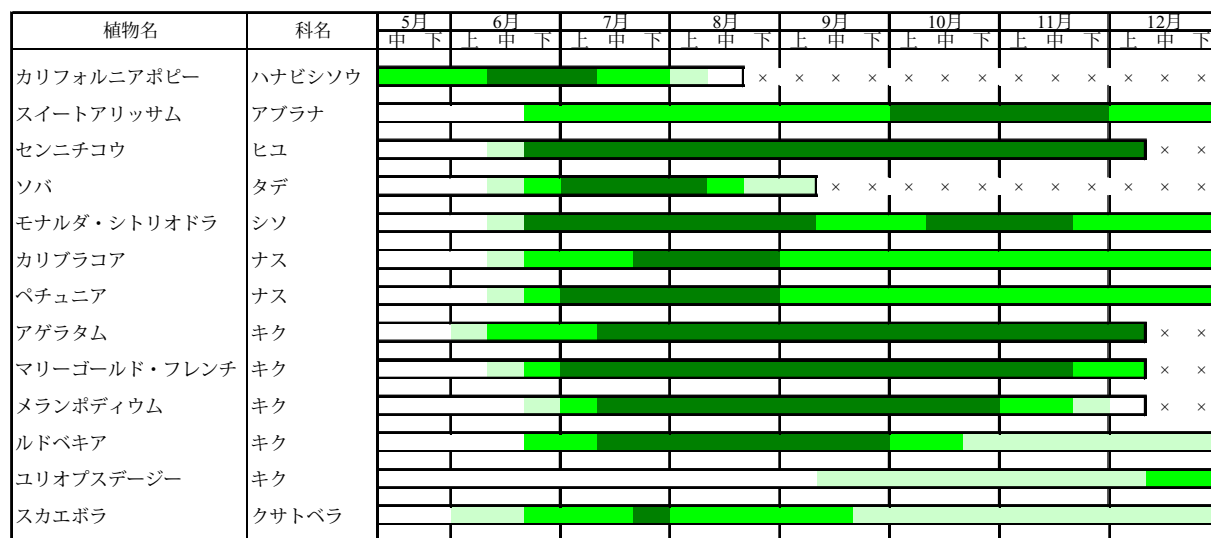


図1 植被暦

注) 被度: ■; 90%~、■; 70~89%、□; 40~69%、□; ~39%、×; 枯死

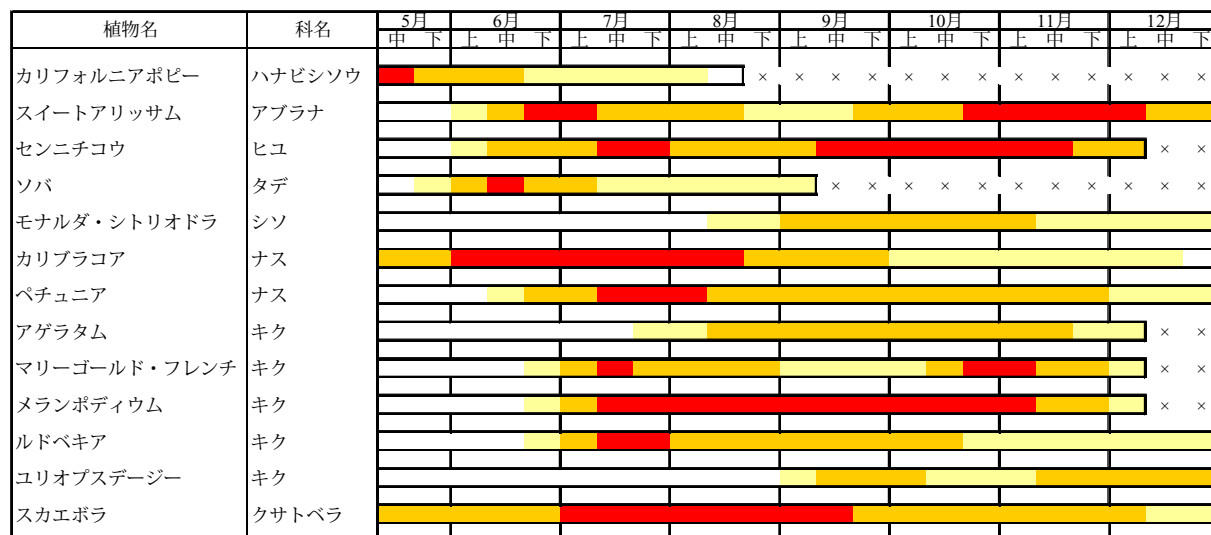


図2 開花暦

注 1) 開花状況 (花の被度×100/株の被度): ■; 50%~、■; 10~49%、□; 5~9%、□; ~4%、×; 枯死

注 2) 播種または挿し芽: 4月上旬 (カリフォルニアポピーは9月上旬播種、カリブラコア、ユリオプスデージー及びスカエボラは挿し芽・育苗後5月上旬定植、その他の草種は直播き)、栽植密度: 30cm×30cm、施肥: 緩効性肥料 (三要素各 20kg/10a 程度) と苦土石灰 (100kg/10a) を全量基肥施用

[その他]

研究課題名: フラワーベルトの土着天敵保護・増殖機能を活用した害虫防除技術の開発

予算区分: 受託 (生物機能プロ)

研究期間: 2004~2006 年度

研究担当者: 飛川光治、永井一哉

関連情報等: 1) 永井、飛川 (2009) 生物機能を活用した病害虫・雑草管理と肥料削減: 最新技術集、58-61

2) 永井、飛川 (2007) 応動昆中国支会報、49: 31-37